

巻頭言



天田財団と FORM TECH REVIEW 誌

理事長 岡本 満夫

Chairman M. Okamoto

天田財団は、現・(株)アマダホールディングスの創業者でもある天田勇の私財寄付(株式等)をもとに、「金属等の塑性加工に関する技術・機械の発展に寄与する事業」の実現のため、1987年5月に設立され、2017年には創立30周年を迎えることとなります。

この記念すべき節目において、財団創立30周年記念事業を企画、2015年度から2017年度までの3ヶ年計画で、ただ今進展中です。おかげさまで、新たに企画した助成プログラムは好評で、2015年度の応募件数、採択件数ならびに助成金額は過去最高となりました。

財団をリレー走の選手と想定すれば、基本財産から得られる「株式配当」というバトン「助成金」というバトンに変えて研究者へ。研究者はそれによって得られた「研究成果」を学会や財団に論文としてバトンタッチ。受けた財団は、それを出版物や研究発表会等を通じての「普及啓発というバトン」に委ねて産業界での活用を願う。経済の発展に寄与するこのバトンリレーのサイクル永続性こそ公益財団法人の目指すべきものだと認識しています。

天田財団は一貫して塑性加工のフィールドでリレー走を行ってきましたが、レーザープロセッシング分野と合せると、2015年度までの累計助成実績は1,353件、1,972,998千円となりました。レーザープロセッシング分野への助成は、2007年の創立20周年に合わせて開始しています。それ以前から塑性加工と絡んだレーザー研究へ助成を行ってきましたが、この年に正式な助成プログラムとして加え、今に至っています。レーザープロセッシング分野のみの累計助成実績は、183件、312,945千円となっています(研究開発助成と国際交流促進助成との合計)。

助成事業の実績は以上の通りですが、もう一つの大きな取り組みとして普及啓発事業があります。財団設立から2

年後の1989年、得られた研究成果を『研究概要報告書・国際交流報告書(現・天田財団助成研究成果報告書)』として出版し、本格的な普及啓発活動を開始しています。またその後、研究成果発表会「Form Tech '91(現・天田財団助成研究成果発表会)」を開催、それを契機に本誌『FORM TECH REVIEW 1991 Vol.1』を発刊開始いたしました。

各時代の要請で研究テーマは変遷していますが、本誌はそれに応じて特集を組みつつ、塑性加工に関する優れた研究成果をレビューしてきました。レーザープロセッシング分野についても、先の通り研究成果の蓄積が成されてきており、創立30周年記念の一環として専門の同等誌の出版を検討してきました。しかし、塑性加工とレーザープロセッシングの研究成果を合わせることで、産学に向けてのより包括的なレビュー誌が実現できるのではないかと考え、本誌の上梓に漕ぎ着けました。レーザープロセッシング分野の裾野は広く、塑性加工と関連した技術は多いため、両分野を掲載することでシナジー効果が期待できるのではないのでしょうか。

レーザー加工技術の変遷をたどれば、1980年代初頭に(株)アマダ(現・アマダホールディングス)が板金業界向けのレーザー加工機械を製品化しています。その後の発展には目を見張るものがあり、塑性加工とレーザープロセッシングの融合によって更なる技術革新が起こることを願っています。

今回『FORM TECH REVIEW 2015』を発刊するにあたり、あらためて財団の歴史等について申し述べましたが、今後とも小誌が塑性加工およびレーザープロセッシング分野の研究と実用化に多少なりともお役に立てれば幸甚の至りでございます。